

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

## 2017(平成29)年度 事業報告書

(2017年6月1日~2018年5月31日)

### 2017年度事業概要

東日本大震災7年目の2017年度は、仙台市でも「住まいの復興」が概ね完了し、街中では仮設住宅用地になっていた公園等の復旧工事も進み、また沿岸部では集団移転跡地の利活用の動きが具体化するなど、復旧・復興はさらに「次の段階」に進んだ一年だった(2018年6月現在、仙台市内の仮設住宅居住者はピーク時の1.7%＝206世帯)。一方、前年度で被災小学校の統廃合が完了した仙台市沿岸部など、現地再建地域の子どもの暮らし・コミュニティの再生はまだまだこれからの課題である。

そんな中、冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの2017年度事業は、引き続き仙台市・岩沼市近郊を中心とした沿岸地域の遊び場づくりが基軸となった。前年度に引き続き、震災以降生まれた「新たなまち」と、津波被害からの再生途上にある現地再建地域の両方で、子どもの遊び場活動と「縁側倶楽部」など交流サロンの活動を連携させながら、子どもを中心に世代を越えた交流の場を生み出した。現地再建地域では、年配の人への子ども時代に遊んでいた経験の聞き取り調査とも連携させながらの展開になった。なおこれらの事業は、2018年に海岸公園冒険広場が再開予定となったことを踏まえ、その後の展開も想定しながら、活動場所や運営形態の変更、再編・終了などを一年かけて検討・実行していった。2011年度から続いた「伊在二丁目公園あそび場」を「七郷中公園冒険遊び場」に展開していったのは、「震災後」を見据えた取り組みの代表例である。

冒険広場再開に向けては、沿岸部でのみどり再生活動などにも取り組み、その他ひろがりつつあるさまざまな地域再生の動きについての情報収集や連携事業の実施にも取り組んだ。

また、2017年度は、10月開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」について、指定管理者の構成団体として運営への参画も始まり、子育て支援の文脈のなかで子どもの遊び・外遊びの大切さを伝える取り組みを始めている。

なお、震災以降の実績が評価され、2017年度、公益社団法人都市住宅学会から「都市住宅学会賞業績賞」を受賞した。

## ◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2017年度事業計画において掲げた6つ重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」項目	主な事業 (定款区分)	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
①被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり	事業1. 事業8.	◎ 仙台市・岩沼市でプレーカーを活用した巡回型の遊び場活動を継続した。
②海岸公園の再開を見据えた、冒険広場周辺での取り組み	事業8.	◎ 周辺での活動を継続した。また再開に向け、指定管理者に選定された。
③「震災後」を見据えた、新たな拠点確保への取り組み	事業7. 事業8.	○ 「震災後」を見据え、七郷地区の遊び場を集約する「七郷中央公園冒険遊び場」の活動をスタートさせた。
④乳幼児親子への、遊びの大切さの発信	事業8.(8)	◎ のびすく若林の運営に参画、乳幼児親子を対象とした外遊びのプログラムを実施した。
⑤地域住民の主体的取り組みの支援と、そのモデルづくり	事業5.(3) 事業8.	○ 約10か所で住民主体の取り組み支援を行なっている。モデルの整理は、今後の課題である。
⑥被災地域を中心に、東北地方で取り組まれる遊び場づくり・支援団体との連携	事業4. 事業5. 事業8.	○ NPO法人にじいろクレヨンと連携しての遊び場の展開(田子西)を行なったほか、遊び場団体の交流会を実施した。より広域の連携は、今後の課題である。
⑦組織運営基盤づくり	9.	◎ 職員の雇用環境整備に取り組んだ。

## 1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

### (1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築：「宮城県被災者支援総合交付金」事業

「宮城県被災者支援総合交付金」事業の一環で立ち上げた連携組織について、仙台市内分は2017年度も継続、意見交換を行うと共に、連携して事業を実施した。

- ・荒井東町内会
- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・一般社団法人 ReRoots
- ・みやぎ連携復興センター
- ・仙台市社会福祉協議会若林事務所
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区中央市民センター
- ・仙台市市民協働推進課

### (2) その他、他団体とのネットワーク

- \*NPO法人せんだいファミリーサポートネットワークとの乳幼児事業における連携(事業8.(2)(8)等)
  - \*NPO法人にじいろクレヨンとの田子西地区の復興支援事業における連携(事業8.(2)の⑩～⑫等)
  - \*宮城県子ども支援会議 参加
  - \*七郷地区子育て交流会 参加
  - \*ふるさとの杜再生プロジェクト 委員
  - \*わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委委員会 委員
  - \*わたしのふるさとプロジェクト 参加
  - \*若林区福祉と復興のまちづくりミーティング(旧若林復興の輪ミーティング)参加(主催：仙台市社会福祉協議会若林事務所)
- 上記の継続的な取り組みの他、事業8.の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

## 2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

### (1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、遊び場活動の支援（事業4・事業5）や遊び場交流会（事業6）を通じ、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集した。

### (2) ホームページ等での発信

facebook ページや理事・プレーリーダーのブログとも連携させながら情報発信を行なっている。

### (3) 「冒険あそび場ネットだより 2016」の発行

2017年7月、前年度の活動をとりまとめ発行した。

### (4) 取材・報道等への協力

事業8. を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。

- 〈新聞〉 ・ 6月5日 河北新報「街で会いましょう(64) 冒険あそび場～旧東六郷小学校～」  
・ 4月9日 河北新報「NPOの杜」
- 〈ラジオ〉 ・ 8月19日 ラジオ3「ラヂオはいらいん若林」
- 〈テレビ〉 ・ 2月15日 ジェイコム「デイリーニュース」
- 〈その他〉 ・ 10月 仙台市 英語版の震災復興記録誌「Road to Recovery SENDAI」  
“The Mobile Playground that Tours Around the Affected Areas”（被災地回る『出張型遊び場』）  
・ 4月地星社「宮城県 被災地・地域活動団体ガイドブック 2018」

## 3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

みやぎ地域復興支援助成金事業として取り組んだ「地域資源としての田園環境を活用した、現地再建地域に交流の場を創出する遊び場づくり事業」の一環で、若林区六郷東部地区において、地域の高齢者等から子ども時代に遊んでいた経験の聞き取り調査を行った。

- ・ 事業8. (2)⑧の遊び場と並行したヒアリング 3回
- ・ 個別ヒアリング 5回
- ・ 他団体との協働事業の中でのヒアリングと普及
  - ① せんだい3.11 メモリアル交流館「地域で遊んだ記憶を掘り起こす」 9/18
  - ② 20世紀アーカイブ仙台「なつかしい昭和・昔を語る会」3回（11/14、12/12、1/16）

## 4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

遊び場づくり団体、その他NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる下記のような各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

- ・ 遊び場づくりへの協力依頼 → 事業5. (3)「宮城県を中心とした遊び場活動の支援」
- ・ 遊び場づくりの相談
  - 柴田町太陽の村「冒険遊び場推進協議会」ほか 8/8・10/4
  - 仙台市内の商業施設での遊び場づくりについての相談
  - ほか

・講師派遣

- のびすく若林職員研修 冒険遊び場の活動とプレーリーダーの役割 9/5
- 月寒公園パークライフセンター(札幌市)「プレーパークこれもしっと講座」 10/30
- 公園あそびのヒント講座 in 月寒公園「芝生広場の活用を考えるワークショップ」 10/31
- 日本冒険遊び場づくり協会「使われる都市公園をつくる～改正都市公園法と冒険遊び場づくり～」 12/2
- 山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」 12/14
- みやぎNPOプラザ「Nカフェ」NPOを知ってボランティアを始めよう 2/17
- 東北リサーチとアートセンター「やわつちサロン」「海辺とまちをく遊ぶ」でつなぐ 5/23

- ・NPO 法人運営についての相談 (一社)プレーワーカーズ
- ・研究者・学生からのヒアリングへの対応
- ・その他、視察・見学受入れ等 宮城県社会教育委員 都市住宅学会

## 5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

### (1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営

指定管理者として運営する海岸公園冒険広場は現在も休園中だが、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての遊び場を運営した。(→事業8. 参照)

### (2) 冒険あそび場 in ふるさと広場 9/2

若林区役所と隣接する「ふるさと広場」を中心に、若林区文化センター別棟も含み、遊び場と室内企画を組み合わせたイベントを実施した。隣接地に10月開館予定の「のびすく若林」のPRなども行なった。

### (3) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援

県内各地で始まっている市民レベルの遊び場づくりの取り組みを支援するため、プレーリーダー等を派遣した。また、事業8. で実施してきている巡回型の遊び場についても、「地域の運営主体を支援する」形を目指し、下記⑤～⑩を支援の形で取り組んだ。

#### <事業8. 以外の遊び場活動支援> ①～④

- ①ふるじろプレーパークの会(若林区)「ふるじろプレーパーク」  
6/25 7/27 7/28 10/29 11/26 3/25 6回 のべ6人派遣
- ②子どものまちいしのまき実行委員会「子どものまちいしのまき」 10/7・8 2日 のべ2人派遣
- ③仙台青年会議所「第48回 仙台七夕花火祭」での遊び場(プレーワーカーズ連携事業) 8/5 1回 1人派遣
- ④上原市営住宅自治会(青葉区)「かんぱら公園プレーパーク」 11/5 1回 2人派遣

#### <事業8. での遊び場活動支援> ⑤～⑩ (→詳細は、事業8. 参照)

- ⑤いわぬまあそび場の会・ニコニコキッズ「里の杜あそび場」…運営支援
- ⑥片平地区まちづくり会 のりっば部会準備会「のりっばで遊ぼう」…運営支援
- ⑦乳幼児室内あそび場ちびひろ「ちびひろ」…2017年4月～新体制での運営を支援
- ⑧田子西こだま町内会「お茶のこさいさい」…2016年7月～町内会主催の活動を支援
- ⑨田子西中央町内会「外で遊ぼう！」…2017年4月～町内会主催の活動を支援
- ⑩田子西三丁目町内会「お茶のこさいさい」…2017年6月～町内会主催の活動を支援

### (3) 地域の子どもイベント等への参加

- ・泉中央駅前地区活性化協議会「泉子どもの日フェスティバル」 5/5
- ・若林区中央市民センター「ワカチュウ子どもランド」 10/9

#### (4) 杜々かんきょうプログラム実践

平成 21 年度に仙台市環境局・杜々かんきょう教育プログラムに提案を行い幼児から対象とする環境プログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を、11 か所で実践した。

実施団体	実施日	実施場所	対 象
高砂保育所 (宮城野区)	7/28(金)	高砂中央公園	4・5 才児 (36 名)
仙台保育園 (若林区)	10/13(金)	荒町公園	5 才児 (20 名)
高森サーラ保育園 (泉区)	10/19(木)	保育所内	5 才児(22 名)
能任保児園 (若林区)	10/24(火)	新寺 4 丁目公園	5 才児(17 名)
飯田保育所 (太白区)	10/25(水)	保育所庭・ホール	4.5 歳児(26 名)
青山保育所 (太白区)	10/26(木)	青山 2 丁目公園	5 才児(25 名)
宮城学院女子大学付属認定子ども園 森のこども園 (青葉区)	10/30(月)① 10/30(月)②	園内の森・ホール 園内の森・ホール	5 才児(21 名) 5 才児(21 名)
コスモス将監保育園 (泉区)	10/31(火)	将監開発記念公園	5 才児(25 名)
蒲町保育所 (若林区)	11/2(木)	七郷中央公園	4 歳児(24 名)
太白すぎのこ保育園 (太白区)	11/6(月)	富沢南 2 丁目公園	5 才児(22 名)

## 6. プレーリーダーの養成に係る事業

のびすく若林が開館すると共に、海岸公園冒険広場も開園準備に入った 2017 年度は、両施設の運営にあたる職員を中心に、さまざまなスタッフ研修の機会を持った。

### (1) 講座・研修等の実施

主に、事業 8. として実施する遊び場づくりの活動の中で、スタッフ・ボランティアを対象に下記講座を実施した。また、遊び場での実践も含め、遊びに関わる大人の育成に努めた。

実施日	内 容	講 師	実施枠組等	対 象
2018/2/17	被災地の子ども支援者のためのスキルアップ講座	森あおい(ふるじろプレーパークの会)・三原さくら(のりっば部会準備会)・CO. 菅博嗣	ファンドクリエーション基金	スタッフ ボランティア 一般
2018/ 2/28	2018 年度事業の方向を考える	内部研修	海岸公園冒険広場 サテライト業務	スタッフ
2018/ 5/15	津波避難誘導研修および防災シェルター設置訓練	内部研修	海岸公園冒険広場職員研修	スタッフ
2018/5/27	ケガ・事故への考え方と対処・予防法	根本 (冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク)	里の杜あそび場を運営する「にこにこキッズ」スタッフ研修	ボランティア

その他、10 月にのびすく若林の開館にあたり、のびすく若林に従事する職員を同館として実施した職員研修の機会を活用した。

2017/ 9/ 4	①DV 被害者支援について ②母子健康事業について ③保育サービス相談員について	・やはた えつこ氏 (ハーティー仙台) ・若林区保健福祉センター家庭健康課 ・若林区保健福祉センター家庭健康課	のびすく 若林 職員研修	スタッフ
2017/ 9/ 6	①ジェンダーと子育て支援 ②仙台市の母子保健事業について	・小林 純子氏 (チャイルドラインみやぎ) ・若林区保健福祉センター		
2017/ 9/ 7	①虐待とその親への関わり ②傾聴について	・鈴木 俊博 氏 (キャプネットみやぎ・東北会病院) ・黒澤 哲 氏 (みやぎ乳幼児母乳育児をすすめる会)		
2017/ 9/12	①仙台市の児童館について ②保育所の現状	・仙台市児童クラブ事業推進室 ・向山保育所		
2017/ 9/15	①子どもの病気と怪我の対応 ②乳幼児支援業務とアーチルの役割について	・村田 祐二氏(仙台市民病院) ・佐藤恵子氏 (南部アーチル乳幼児支援係)		

- (2) 市職員研修の受入れ  
・せんだい・みやぎNPOセンター「仙台市協働人材育成事業」研修生2名（5日間）

## 7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

- (1) 被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性についての発信  
事業8.として実施する遊び場づくりの活動を通し、被災地域の復興においての子どもの遊び場の重要性について様々な場で発信を行なった。
- (2) 県・市の行うパブリックコメント手続きにおける意見提出  
仙台市が実施した下記意見募集・パブリックコメント手続きに対し意見を提出、子どもが自由に遊べる環境づくりにつながる提案を行なった。  
①「仙台市幼児教育の指針（中間案）」  
②「確かな学力育成プラン2018（中間案）」
- (3) 海岸公園冒険広場についての、新たな運営の提案  
2018年に再開することが決まった海岸公園冒険広場の指定管理者募集に際し、周辺地域での遊び場等の活動との連携を重視した提案を行い、運営者となることが決まった。

## 8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

- (1) 海岸公園冒険広場および周囲での活動  
2017年度は、海岸公園望遠広場の2018年度再開が正式決定し、8月にあらためて指定管理者の公募がなされた。これに応募し、11月には選定委員会において候補者として選定され、2月に市議会での議決を受け2018年4月から指定管理者に復帰した。なお、2018年3月までは「海岸公園冒険広場サテライト業務」を仙台市より受託し、「七郷あそび場」（下記(2)の①）等で冒険広場の役割の一部を担うと共に、現状や再開見通しなどを伝え続け、再開後の新たな公園への橋渡しになる取組みに努めた。また、発災直後から取り組む記録活動や、みどり再生活動にも取り組んだ。
- (2) 冒険広場周辺地域および岩沼市で開催する遊び場  
海岸公園冒険広場が長期休園となるなか、引き続き、冒険広場からやや内陸部に入った六郷・七郷地域を中心に複数個所で「遊び場づくり」活動を展開した。  
震災前から冒険広場が果たしていた「あそびを通して子どもの育ちを支える」役割と、東日本大震災発生後「心のケア」の役割を担うという当初の目的に加え、屋外の利点を活かして人のつながり～コミュニティづくりの場としての役割もねらいとし活動した。  
2017年度は、新たに若林区久保田東地区＝防災集団移転促進事業で新たにできた街での活動をスタートさせる一方、伊在二丁目公園あそび場を七郷中央公園冒険遊び場に移行するなど、海岸公園冒険広場再開後を展望して遊び場の再編・移行にも取り組んだ。  
また昨年度に引き続き、長期的な活動の継続を意識し、「地域の運営主体を支援する」形での取組みにも力を入れた。（※あそび場名称前に<<支援>>と記載。）

### <若林区：七郷地域の遊び場> ①～⑥

七郷地域で実施する遊び場は、①②③⑤の4か所が「荒井公共土地区画整理地区」内にあり、④は「荒井東土地区画整理地区」にある。両地区は、隣接する荒井西・荒井南地区と共に、集団移転先も割

り当てられた区画整理区域である。復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通などにより新市街地もひろがり、新住民同士、新住民と旧住民、など多様な交流の場が期待される地域である。

① **七郷あそび場（荒井4号公園）** 毎週土曜 計48回 のべ5816人

【仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務 ほか】

休園中の海岸公園冒険広場が目指していた自由な遊び場づくりを、他の公園で実現する「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施した。活動場所の荒井4号公園に隣接する児童館・市民センターの事業にも協働で取り組み、連携を深めた。海岸公園冒険広場の再開に向け2018年6月で終了するため、利用者を海岸公園や七郷中央公園につなげていけるよう努めた。

② **伊在二丁目公園あそび場（伊在二丁目公園）** 2018年1月まで 毎週水曜 計32回 のべ1777人

【日産スマイルサポート基金】

2011年8月にスタートした、プレハブ仮設住宅の立地していた公園での遊び場を、2018年1月まで継続した。③七郷中央公園冒険遊び場へ、これまで遊びに来ていた人をつないでいくことに重点を置きながら取り組んだ。終了後の2月も掲示や町内会回覧等を活用したフォローを行った。結果、多くの子ども・親子が②「七郷中央公園冒険あそび場」にも足を運ぶようになっている。

③ **七郷中央公園冒険あそび場（七郷中央公園）** 2018年2月～ 毎週水曜 計17回 のべ1230人

【日産スマイルサポート基金】

伊在/荒井/蒲町地区の境界にある「七郷中央公園」を拠点にした、より自由度の高い冒険遊び場活動を実施した。週1回の継続的な遊び場とすることで、乳幼児親子から学童・中高生まで自由に遊べ、ありのままにいられる居場所となる場づくりを目指した。

6月までの前半については、公園内仮設住宅跡地の復旧・一般開放に至っておらず場の展開について一部制約はあったものの、地域・公園管理者・消防等と相談のうえ毎週七輪によるたき火をできるようにするなど、②伊在二丁目公園よりも自由度を高めた展開を可能にすることができた。子ども・子どもを持つ保護者に限らず、散歩等で公園を訪ねる地域の年配の方々とコミュニケーションを大事にし、世代を超えたコミュニケーションを生むこともできた。

④ **〈支援〉 乳幼児室内あそびば「ちびひろ」（上荒井公会堂）** 毎週木曜 計46回 738人

【日産スマイルサポート基金】

町内会の公会堂を活動場所とした、旧住民と新住民の交流を生むきっかけともなる乳幼児親子の遊び場。について、遊び場の開催補助に入る支援を行うと共に、自立運営に向けた仕組みづくりの支援を行った。

運営にあたるメンバーと町内会役員たちにつなげたところ、町内会側でも「地域の若い母親たちを支えよう」という気持ちが強くなっていると感じている。新年度、中心的なメンバーの子たちが幼稚園に入園することになり、新たな運営のあり方が課題になっているが、ボランティア募集のサポートなども行っている。

⑤ **荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう（荒井東復興公営住宅）** 毎週 月曜 計43回 のべ1470人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

遊び場活動を始めて4年目に入った荒井東復興公営住宅は、2017年度市営住宅の一般募集により「被災者ではない人」の入居も始まり、「新たな段階」に入った。そんななか、引き続き一年を通し同じペースで開催する中で、新たに転入してきた人も含め、居住者同士の交流（多世代の交流、住宅内での枠をこえたさまざまな交流）の場となった。また周辺の親子との交流も進んだ。遊び場では、子どもたちが学年を越えて名前を呼びあって一緒に遊ぶようつながりが生まれた。

遊び場に加え、恒例となった夏祭りに今年も協力（神輿、スイカ割り、遊びのコーナー、「子どもも踊れる」盆踊り等）した。その他、5月・広場に飾った鯉のぼり、12月・イルミネーションの寄付の呼びかけ、集会所前や畑のベンチ作りなど、町内会による交流促進のための活動を随時おこなっている。

⑥ 下荒井公会堂であそぼ（下荒井公会堂）月2回程度 月曜日 計24回 359人

【宮城県被災者支援総合交付金事業】

荒井東復興公営住宅に最も近い既存町内会＝下荒井町内会の会館での、乳幼児親子対象の遊び場は、今年度も、一年を通じて荒井東(公営住宅)・荒井広瀬(周辺新住宅地)・下荒井3町内会の親子が訪れ、交流する場になった。多世代の交流の場づくりを目指して、近隣の小規模多機能ホームと連携の相談も始めている。

＜若林区：六郷地域の遊び場＞ ⑦～⑨

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学校学区周辺）で被災した人の多くは、仮設住宅の段階から、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に仮住まいを設けた。その後、復興公営住宅が立地ほか個別再建も含め、この周辺に移り住んだ人は多い。2017年3月には、東六郷小学校が六郷小学校に統合されるなど、子どもたちを取り巻く環境も新たな段階に入った。

こうしたなか、移転先の地区での新たな関係づくりと、人口減少の激しい現地再建地域のコミュニティ活性化なども視野に、3か所で遊び場活動を実施した。

⑦ 六郷あそび場（六郷小学校校庭） 毎週土曜 計47回 のべ2094人

【宮城県被災者支援総合交付金事業 ほか】

東六郷小が統合され、広がった学区で新たなスタートを切った六郷小学校の校庭での遊び場。同校は2017年度が統合一年目ではあったが、東六郷小からの転入生が2人のみだったこともあり、多くの六郷小児童にとっては、その実感は強くはない。そんな状況の中、旧六郷小学校の児童も旧東六郷小校区にも関心を持ってもらえるよう努めた。遊び場での子ども同士の関係での中から、学校近くに住む子が六郷東部にある友達のうちに遊びに行くような場面が見られたほか、⑧「東六郷で遊ぼう」にも子どもたちをつないでいき、旧東六郷小も含めた新たな地域意識の醸成にもつながるものになることを意識して遊び場を開催した。

⑧ 東六郷で遊ぼう（日吉神社境内および周辺） 計11回 のべ289人

【みやぎ地域復興支援助成金 ほか】

東六郷小が閉校して迎えた2017年度、校舎の解体工事が始まる直前の6月までは同校校庭で遊び場を実施、校舎のお別れ会とも連携すると共に、7月からは近隣の日吉神社境内に拠点を移し、月1回の活動を継続した。大きな人口減少がみられる現地再建地域も、子どもの遊ぶ環境という意味では自然に囲まれた魅力を持っている。そうした魅力にも気づく機会とすることを目指し、周辺にも積極的に出て四季を楽しんだ。

事業3. の子ども時代に遊んでいた経験の聞き取り調査とも連動し、遊び場に並行してヒアリングを行うと共に、聞いた話を絵にして遊び場チラシと共に地域に配布したり、聞いた話をもとに実際に作ってみたり…という機会としても活かした。

⑨ 久保田東あそび場（久保田東集会所隣接の公園） 計9回 のべ133人 【宮城県被災者支援総合交付金事業】

防災集団移転促進事業による「六郷地区」に設立された久保田東町内会の集会所に隣接する公園での遊び場。2017年度、同地区では空き区画に建てられた一般住宅への入居も進んだが、そうした新たな転入者も遊びに来る姿が見られた。交流サロン活動「縁側倶楽部」とできるだけ活動日を合わせ、集会所から子どもが遊ぶ様子を見てもらえるようにし、交流が生まれるきっかけとなるよう努めた。

＜仙台市宮城野区：田子西地域の遊び場＞ ⑩～⑫ いずれも【宮城県被災者支援総合交付金事業】

2016年度に引き続き、防災集団移転促進事業の移転先になっている田子西地区・同隣接地区での3か所の活動を継続した。いずれも設立されて間もない町内会の交流を支援する形で、遊び場・交流サロン活動にNPO法人にじいろクレヨンと連携して取り組んだ。



- ⑩ <<支援>>お茶の子さいさい（田子西第二復興公営住宅集会所）<主催：田子西こだま町内会> 計10回 330人  
集団移転地区と比べるとかなり幅広い地区から住民が集まっており、世代を超えて住民同士が知り合える場をつくりたいという町内会からの要望があり、2016年7月より始まった活動。高齢者が中心に集まる交流サロン活動を実施する集会所内と、子どもが中心に集まって遊ぶ広場の間で、できるだけ相互の行き来が生まれるよう配慮しながら活動した。大人の間で子どもをおおらかに見守る雰囲気がつくられてきており、回を重ねるごとに、子どもが集会所内の大人の傍らで過ごす時間が増えてきた。季節の行事の際など、子どもも大人も一緒になって楽しんだ。

- ⑪ <<支援>>外で遊ぼう（田子西二丁目公園）<主催：田子西中央町内会> 計11回 969人  
田子西中央町内会は、被災し移転してきた住民、震災に関係なく転居してきた住民、従前からの住民が混在している。同町内会からの、属性や世代を超えて交流できる機会をつくりたいとの相談を受けて2017年2月に始まったあそび場だが、今年度は、毎月1回のペースで定例化して実施した。  
田子西地区全体の中央にある立地特性も活き、田子西地区の各町内会の子どもたちが集まり年齢を超えて共に遊ぶ場となっている。2月には、設立されたばかりの「田子西さんさん子ども会」の歓送迎会にも協力、これを機に遊び場を知った子どもや親も多く、今後の展開につなげていきたい。

- ⑫ <<支援>>お茶の子さいさい（田子西三丁目集会所）<主催：田子西三丁目町内会> 計5回 244人  
田子西三丁目町内会は、防災集団移転田子西隣接地区の南側の範囲で設立された町内会。2016年に多世代交流の場として始まったにじいろクレヨン主催の活動はいったん終了したが、あらためて町内会から協力依頼があり、2017年6月より町内会主催の形で再開した。  
2か月に1回だが、町内会行事とも連携させることで、子どもと大人が共に集まる場になった。遊び心を持った大人も多く、自然な形で世代間交流が生まれている。

<その他仙台市内で継続的に取り組む遊び場> ⑬ ⑭

- ⑬ 若林小学校あそび場（若林区：若林小学校校庭）月1回 計8回 のべ598人【日産スマイルサポート基金】  
若林小学校・若林区中央市民センター・若林市民センターとの協働事業として毎月1回の開催を継続して6年目になった。おやじの会の行事への協力（(3)③）などにも取り組み、運営に関わる地域住民を増やしていくことを目指した。
- ⑭ <<支援>>片平地区「のりっぱであそぼう」（青葉区：まちなか農園藤坂隣接の空地）  
2015年に「新しい東北先導モデル事業」としてスタートした取り組みが、2016年度より近隣住民等で組織される「のりっぱ部会準備会」遊び場プロジェクトチームの取り組みとして再スタートした。  
西公園プレーパークの会とともに支援している。2017年度は、東北福祉大サークル「追廻セツルメント」による継続的な活動も始まったため学生の支援にも力を入れた。

<岩沼市で取り組む遊び場> ⑮ ⑯

- ⑮ 楽農村で遊ぼう（岩沼市：朝どり+楽農村） 計8回 のべ418人 【みやぎ地域復興支援助成金 ほか】  
岩沼市玉浦地区の現地再建区域の農家が運営する市民農園における、農地の環境を活かした遊び場。四季を通して年間を通して活動した。都市部の親子の参加も多く、交流人口を生む効果が見られている。2017年度は、持続可能な運営形態の確立を目指し、プレーカー無しで実施できる形を基本に実施した。
- ⑯ <<支援>>里の杜あそび場（岩沼市：里の杜中央公園） 計9回 のべ327人  
岩沼市の被災者支援事業として2013年に始まった「里の杜あそび場」を引き継いだ、市民による「いわぬまあそび場の会」および学生ボランティア団体「にこにこキッズ」の主催事業の遊び場。市民メンバーの減少で継続の可否を検討する場面もあったが、学生ボランティアのサポートを行うことも含め、活動の継続を支援した。

### (3)他団体の実施する企画への開催支援等

前年度に引き続き、遊び場活動実施地域の町内会や復興公営住宅自治会、市民センター等の夏祭りや子ども企画への協力を行なった。

- ① わたしのふるさとプロジェクト「旧東六郷小学校 校舎を送る会」 6/11
- ② 七郷市民センター・七郷小おやつ会「七郷子どもクラブ」 6/4 7/16
- ③ 若林小おやしっ子クラブ「学校に泊まろう」 7/29
- ④ 上荒井町内会「上荒井夏まつり」 8/5
- ⑤ 荒井東町内会 夏祭り 8/6
- ⑥ 田子西三丁目町内会 夏祭り 8/19
- ⑦ せんだい3.11 メモリアル交流館「食べられる生き物を探しに行くツアー」 8/20 10/14
- ⑧ 六郷東部まちづくり部会「六郷東部ふるさと交流祭」 10/29
- ⑨ わたしのふるさとプロジェクト「第3回 鎮魂の花火」 1/27
- ⑩ 田子西さんさん子ども会 歓送迎会 2/25

### (4)遊び場づくりと連携した、大人も集まれる「縁側倶楽部」等の支援活動の実施

【みやぎ地域復興支援助成金 ほか】

遊び場と並行した「ものづくり+お茶っこのみ（交流サロン）」を実施、復興公営住宅の集会所で継続実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。臨床心理学やカウンセリングの専門家にもしてもらい住民のフォローをしている。また、若林区六郷地区に生まれた復興公営住宅・集団移転先での活動について、若林区保健福祉センターとも連携しながら状況把握・検討を継続した。その他、交流活動に取り組む他の支援団体と連携・協力した事業を行なうと共に、随時相談を受けた。

- ① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」 月1回 計8回 113人
- ② 久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」 7/20(木)～ 月1回程度 計7回 99人
- ③ 二木町内会集会所「東六郷縁側倶楽部」 4/29 試行

### (5)沿岸部の環境調査 8/20 10/14 2/4

様々な復旧工事の進む仙台市沿岸部において、生き物の回復状況を探り、その様子から被災地域の「再生」のあり方も考えていくことを目指し、季節ごとに海岸公園冒険広場や貞山堀など冒険広場の周辺を中心とした沿岸部の生き物を調査した。

### (6)仙台平野の居久根再生「大内さんちの居久根プロジェクト」 【みやぎ地域復興支援助成金】

津波で被災した若林区六郷東部地区で、広く人々が集える新しいかたちの居久根の再生に向けて取り組んだ前年度に引き続き、所有者の大内氏のほか、支援団体、研究者・学生、近隣の幼稚園、一般市民有志と共に活動した。2017年度は、都市デザインワークスによる「イグネススクール」にも協力した。

### (7)「ふるさとの杜再生プロジェクト」参画

仙台市・市民・NPO・企業等の皆様の力を結集し、海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るプロジェクト。当会もメンバーとなっており、2016年度に七郷小児童が海岸公園冒険広場で採取し育てている苗の補充等の協力や、植樹会・育樹会の実施協力をした。

### (8)「のびすく若林」の運営への参画

10月開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」について、指定管理者の構成団体として運営。週3日プレーリーダーを配置すると共に、「ふるさと広場へお散歩に行こう」「パパとお外あそび」などの企画を行い、子育て支援のなかで子どもの遊び・外遊びの大切さを伝えていった。

## 「事業 8.」各取組みの財源別整理

	海岸公園冒険広場 サテライト業務	宮城県 被災者支援 総合交付金	みやぎ 地域復興支援 助成金	日産 プレジデント基金	住友商事 フォローアップ プログラム	その他
① 七郷	◎(～3月)					○(4月～)
② 伊在二丁目公園				◎		
③ 七郷中央公園				◎		
④ 上荒井公会堂				◎		
⑤ 荒井東復興公営住宅		◎				
⑥ 下荒井公会堂		◎				
⑦ 六郷		◎(～3月)			○(4月～)	
⑧ 東六郷			◎(7月～3月)	○(～6月)	○(4月～)	
⑨ 久保田東		◎				
⑩ 田子西第二復興公営住宅		◎				
⑪ 田子西二丁目公園		◎				
⑫ 田子西三丁目町内会		◎				
⑬ 若林小学校				◎		
⑭ 片平地区						◎
⑮ 楽農村(岩沼)			◎(～3月)		○(4月～)	
⑯ 里の杜(岩沼)						◎
お茶っこ飲み等支援活動		◎			○(東六郷)	

## 9. 組織運営について

2016 年度に策定した中期計画で具体的な取り組みとして挙げた「中長期を見据えた人材の確保・育成を可能にする仕組みをつくる。職員の雇用方法や働き方についても検討を行う。」に基づき、雇用環境の改善を行なった。職員の無期雇用転換制度を導入、2018 年度から適用することとした。

一方、事務局体制の強化や、会員・寄付者の増加への取り組みについては、課題となっている。